

# 3月えんだより

2018年3月1日

2017年度年間聖句：

「あなたがたは神に愛されている子どもです」

エフェソの信徒への手紙5章1節

3月聖句：

「あなたの未来には希望がある」

エレミヤ31章17節

少しずつですが暖かさを感じるようになりました。ちょっと散歩や外遊びしたら、半袖になる子どももちらほら。日差しの中に春の風を、香りを感じながら、来たる季節に心を躍らせています。寒い、また今年はとびきり寒い冬だったからこそ、暖かさに対する喜びもひとしおなのだと思います。

大人と子ども、同じ部分と違う部分、挙げてみられたことはあるでしょうか。無論「経験がある」「知識がある」「知恵がある」からこそ大人としてふるまっている部分は家庭でも容易に挙げられるでしょうが、保育園で子どもたちと過ごしていると、大人も子どもも同じだなと感じることがたくさんあります。うれしい、楽しい、悲しい、怒り、感情の表現はもとより、人とのやり取りでも相手に合わせる・様子を見るなど時には大人顔負けの様子を日々の様子の中で見せてくれています。きっと家庭では、親など自分を守ってくれる絶対的な存在の大人がいるからそれに合わせて子どもの顔をしているのでしょうか、子どもどうしのやり取りでは大人どうしの関わり同様、子どもも個性ある「人」だと感じさせる振る舞いをみせてくれます。

しかし、大人と子どもの中で絶対的に違うと感じるのは「目に見えない」ことについてです。お話や礼拝で、「神様」や「お化け」など目に見えない存在に対して子どもはすぐに受け入れてくれます。しかし同じ見えないことでも「絶望」や「希望」そして「未来」について、子どもにわかるように語るのは至難の業です。振り返る過去がないから未来がわからないでしょうし、絶望や不安を感じることがないから希望を考えることはないでしょう。しかし、大きくなるにつれ、たくさんを知る中で、様々な悩みや葛藤にさいなまれる時が訪れるとき、自分を信じ、周りを信じ、未来を信じる力が必要となる時がやってきます。その時に助けとなるのが「希望」だと思うのです。何もまだ先がわからない子どもですが、いい出会い、いいつながり、いい体験ができれば、それは希望を生む、希望を強くする力となるでしょう。

保育園で何より幸せと感じるのは、私たち子どもにかかわるものは、未来の希望そのものと日々接しているからです。子どもが希望を感じられる社会が創られるのであれば、私たちも希望に満ちたものとなります。子どもたちの目がいつまでも輝いている社会となるよう歩んでまいりたいと思います。

月主題	大きくなった	大きくなった
	乳児（0.1.2歳児）	幼児（3.4.5歳児）
月のねがい	<ul style="list-style-type: none"> <li>大きくなったことを喜ぶ</li> <li>春を見つける</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>神さまの守りの中で大きくなったことを喜び、感謝する</li> <li>共に生かされていることを感じ、仲間との生活を大切に思う</li> <li>新しい生活へ安心して向かおうとする</li> </ul>